第１回ＩＴを活用した教育センターのワークショップを終えて

文部科学省　大学間連携共同教育推進事業について
－「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」H24～H28－

昭和大学スペシャルニーズ口腔医学講座　片岡　竜太

本学が幹事校となり「4 大学交流」をおこなっている北海道医療大学，岩手医科大学と各大学と密接な関係を有する蒲田・大森・目黒区・荏原・品川歯科医師会，札幌・北海道歯科医師会，盛岡市・岩手県歯科医師会が連携して構築した「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」という 5 年間のプログラムが総応募数 153 のうちの採択 49 事業の 1 つとして選定されました。

超高齢社会の到来により，歯科を受診する患者の「基礎疾患の有病率・服薬率」が増加しています。本事業では「患者中心の安全な歯科医療を実践」するために，全身の状態を把握した上で，歯科医療を行う際に基礎疾患に留意できる歯科医師を養成します。高齢者には高頻度に口腔乾燥症（ドライマウス）がみられます。口腔内の痛みや味覚障害を合併し QOL を低下させるばかりではなく，誤嚥性肺炎の原因にもなります。服用薬剤や糖尿病などの全身疾患との関連も深く，口腔乾燥症の原因を理解し，治療を実践できる歯科医師を養成します。さらに現在歯科医療は診療所に来院する患者を中心に提供していますが，超高齢社会の到来とともに，要介護高齢者が増加し，在宅歯科医療（施設を含む）の充実が求められています。地域医療，多職種連携のチーム医療を理解し，専門的口腔ケアを実践できる歯科医師を育てます。

本取組を進めるために，11 月 22 日に連携校と連携歯科医師会から 50 名の参加者を集め，第 1 回の IT を活用する教育センターのワークショップを開催しました。超高齢社会で求められる歯科医師像について教務課の方々も含めて討議し，現在連携校で使用している IT 教材（電子ポートフォリオ，e-learning，バーチャルペーシェント）を共有しました。懇親会場である入院棟 17 階タワーレストランには PC のブースを設営し、実際に IT 教材を使っていただきました。さらに今後 IT 教材を連携して作成していくために口腔乾燥症，基礎疾患を有する患者の歯科診療，地域医療をテーマに３つのワーキンググループを結成しました。3 月 7 日の第 2 回ワークショップでブラッシュアップした後に作成した IT 教材を H25 年度の 3 年生の教育に活用する予定です。

社会のニーズに応えることができる歯科医師を養成するために、連携大学と歯科医師会の力を合わせて，学生が能動的に学べる教材および教育プログラムを作っていきますので、今後ともよろしくご支援ご協力をお願いします。